

稲穂北に輝く にぎりめし



令和4年度穂北中学校だより

3月号

穂北中HP

校長

伊東 泰彦



新さいと学・キャリアみらいゼミを実施！



ステージで進行をする穂北中の生徒

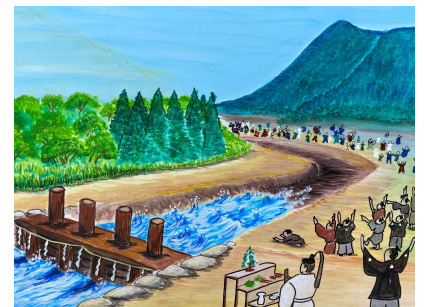


オープニングで話をする門松先生

一年生を対象とした新・さいと学プログラム「キャリアみらいゼミ」が、二月三日に市民会館と妻中学校を会場に初開催されました。最初のオープニングトークでは、校長の宮崎校長先生(妻中)、県教委の足田主幹とともに本校の門松先生が、この一日で学んで欲しいことなどを話してください、学びの姿勢が高まりました。次のハイスクール・クエストでは、妻高校の三浦校長先生と進路の決まっている三人の生徒さんが、高校とは何を学ぶ所なのかなどの具体的な話をしてくださいました。どの生徒も中学



様々なお話をしてくださる妻高校の校長先生と生徒



のうちに読書をしておくという、と話してくださったのが印象的でした。その後は、郷土・西都について学ぶマイタウン・クエストで本校三年の竹尾純美鈴さんと一年の中山天音さんが郷土紙芝居の朗読をしてくれました。当日取材に来ていたMRTの古田とわアナウンサーからも褒めていただくほどの素晴らしい朗読でした。また、午前中は本校の生徒たちがステージで進行を務めたり、高校生に質問をしたりするなど、これまで培ってきた穂北中生の対話力や積極性が発揮されており、頼もしさを感じました。



古田アナのコメント



高校生への質問



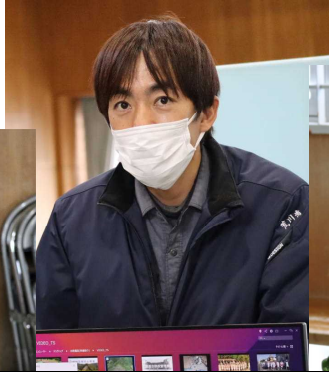
マイタウンクエストでの朗読

※次頁へ続く

※前頁からの続き



午後のオープニングトークで話す代表ゲストの方々



ブースで話をしてくださる本校の保護者の方々

午後は、様々な職業人から郷土で暮らし・働く魅力などを学ぶワーキング・クエストでした。大石哲也氏(大石プロパン)、飯田珠紀氏(TMKコーポレーション)、福島梓氏(県キャリア教育コーディネーター)、によるオープニングトークの後、生徒たちは20のブースから3つを選んで対話的な学びを進めていきました。本校校区からも、現保護者である川北さん(茶臼原「カー」)・荒川さん(荒川建設)、壹岐さん(ピーマン農家)をはじめ、ふたば幼稚園の寺尾園長にもブースを出していただきました。生徒たちにとっては、将来の自己実現や生き方を考える貴重な一日だったと思います。

宮崎大学での発表で、本校生徒が大活躍！

宮大生や先生方を前に発表する本校の生徒たち



発表後に大学生から質問を受けている生徒たち



二月九日、宮崎大学でキャリア教育実践発表研修会(県教委主催)が行われました。本校は本年度、県教委の指定校となっていたので、代表生徒九名が職員と一緒に宮崎大学で発表を行いました。他には日南市立鶴戸小学校、小林市立細野中学校、美郷町立美郷北学園が参加していました。本校の生徒たちはプレゼンはもちろんのこと、会場の大学生や先生方からの計十個ほどの質問に対しても堂々と応答をしており、その姿や話す内容などが会場の参加者たちから高い評価を受けていました。発表後は、宮崎大学の大学院生たちから「穂北中の生徒たちと交流がしたい」との申し込みがあり、三月には来校される予定となっています。

新しい形式での立志式を行いました！

2月21日、参観日に併せ、二年生を対象とした立志式を行いました。「立志」という言葉は、幕末の越前藩士・橋本左内という人が著した「啓発録」という若者向けの書物に記したこと而得名です。橋本左内はその本の中で、学びに向かう若者の心構えとして「志を立てる」ことの大切さを説きました。立志の他にも「稚心を去る」「気を振る



決意表明の様子



進行も生徒

う」、「学に励む」、「朋友を選ぶ」ことの大切さを十五歳にして説いていきますが、どれも中学二年生の時期に大切なことばかりではないでしょうか。本校でも生徒たちが、自分の志を立て、それを漢字一文字に込めています。その前段階として、郷土での職場体験で学んだことをまとめ、お世話になった事業所の魅



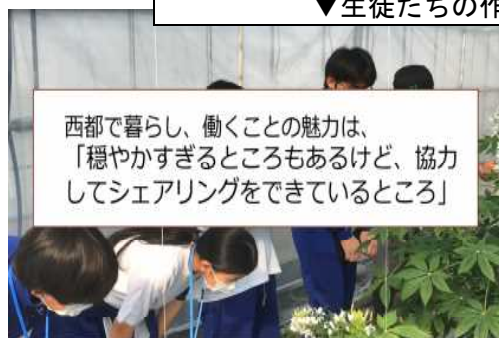
振り返りのクロストーク



会場の様子



▼生徒たちの作成した動画の一場面



力をPRする動画を作成し、それを披露しました。GIGAスクール構想の一環で一人一台のタブレットが支給されていますが、生徒たちはそのタブレットを自由に使いながら素晴らしい作品を制作していただきました。新しいツールを有効に使いながら新たな発信に挑戦していく姿がとても立派だと思います。

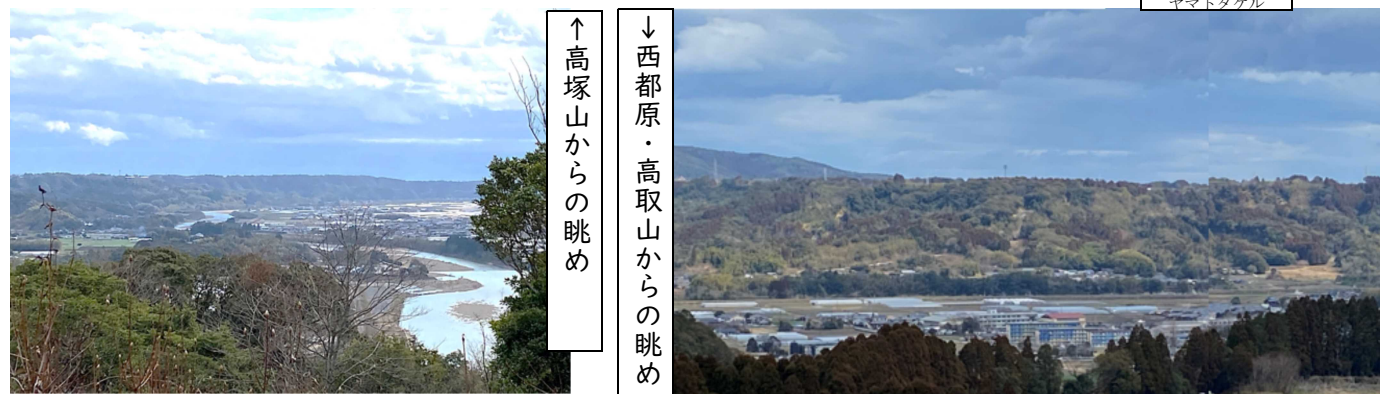
穂波ゆる壽き田の里

穂北考②

ここ数か月で二度ほど、歴代PTA会長OB会で様々なお話を伺う機会があった。通常ではなかなか聞けない本校の思いを伺うことができ、あらためて76年間という歴史の重みを感じた。昨年度の着任後に最初に書いたのが「穂北考」だったが、今一度、上穂北村百年記念誌「穂北」を読み返してみた。同誌の序章は産土・穂北の紹介から始まっているが、この風景描写は名文でありぜひ紹介したい。▼御船通から法元を過ぎて坂を下ると、まず遠方に尾鈴の高嶺が見えてくる。と思う間に道はカーブして景色は一変し屏風のような蒼い北陵の群山が眼前に現れゆるりと弧を描いて吹山の連峰に続く。合間の凹みには高塚山が顔を出し、その背後には千古神秘の米良山系が広がって、目路はるかに西空にかすんでいる▼高塚山は三百mの小丘ながらそこから眺めはすばらしい。米良山を背に東を望めば右は宝財原・山路を越えて三納・妻方面の山野がけぶり、左は遠く新田原基地や摺鉢山の彼方に太平洋の白波も見える。そして眼下には一条の銀蛇が島や州を呑み込み、大きくうねって千田・山角の辺りに消え、杉安橋や久右衛門堰と左岸河川公園の対照も鮮やかに、坂江の煙突や穂北橋、大將軍の森や如法寺の岩肌も一望の下にある▼次は西都原の最高地・高取山。登ってまず驚くのは島内の村・町がすぐ直下に見えることだ。穂北小・中校の校舎や市営の住宅がキチンと並び、その向こうには川が流れて田畑が開け台地がある。北陵の山ひだやゆるい尾根の稜線も美しく、一幅の絵のように大らかなこの土地は、西都原から見下ろせる唯一の田園地帯で、しかも狭穂の聖地の真北にあたる。されば古人はここを「穂北」と名付けた：▼我々穂北関係者にとっては、穂北こそ「国の真秀ろば 畳なづく青垣 山籠れる穂北し麗し」※なのだと思えますし、地域の良さや美しさを誇っていくべきだと思います。

(校長 伊東泰彦)

※国の真秀ろば…国で一番美しいところ / 畳なづく青垣山籠れる…重なり合った青い垣根の山に囲まれた(古事記・倭建の歌)



↑高塚山からの眺め

↓西都原・高取山からの眺め

本を寄贈していただきました！

先日、杉安にお住まいの本部様ご夫妻より本校の図書室に本の寄贈をいただきました。亡くなられたお母様のご遺志ということで、日頃なかなか購入できない調べ学習用の図鑑などをいただきました。同じように数年前にもご寄贈頂いた「サダちゃん文庫」と併せ活用させていただきます。ありがとうございました。



計6冊の本を
ご寄贈いただきました

【3月・4月の主な行事】

3月

- 7・8日…県立高校一般入試
- 10日…送別行事・弁当の日
- 16日…第76回卒業証書授与式
- 17日…県立高校入試合格発表
- 24日…修了式

4月

※予定です

- 7日…始業式・新任式
- 11日…第77回入学式
- 12日…新入生オリエンテーション
- 15日…参観日、PTA総会
- 19～26日…家庭訪問

穂北中「人権宣言」を作成しました！

本校は、仲間づくりを促進する「ピアサポート推進校」の指定も県教委より受けています(R3~5)。その一環として、このたび生徒会が、更によりよい学校づくりを目指すための「穂北中学校人権宣言」を作成しました！

穂北中学校人権宣言

R5.2策定

- 一、私たちは、笑顔あふれる明るい学校を目指します。
- 一、私たちは、きれいな言葉遣いができる学校を目指します。
- 一、私たちは、一人一人の個性を尊重し、
互いを高め合える学校を目指します。